

【保育の内容・方法の理解に関する科目】

<p><科目名> 保育内容 (演習・6単位)</p>	
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「保育内容」とは、保育所において保育の目標を達成するために展開される全ての内容を意味するものであることを理解させる。 2. 領域別(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の教科の学びと共に、それらを総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について学ばせる。 3. 保育士として、発達過程に即して子ども理解することと、総合的に指導・援助が行えるよう実践的な力を習得させる。 4. 「保育内容」は、5領域を視野に入れた教科(5領域に区分、5領域にとらわれず区分のいずれも可)と、それらの教科を統合する「保育内容総論」から構成されることが望ましい。 	
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の基本と保育内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の基本と内容・方法を理解させる (2) 全体構造の中で保育内容をとらえる 2. 保育内容の歴史的変遷 3. 子どもの発達と保育内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの発達の捉え方と保育内容 (2) 保育所保育指針の発達観 (3) 保育所保育指針での保育内容の構成 <ul style="list-style-type: none"> ア 養護に関わるねらい及び内容 イ 教育に関わるねらい及び内容 ウ 養護と教育の一体性 4. 子どもの活動と保育環境・子どもの活動と援助 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの活動の捉え方と環境 (2) 保育の環境とは・環境構成とは (3) 保育者の援助とは (4) 遊びを通しての総合的指導とは 5. 保育の計画と評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育課程の編成 (2) 指導計画の作成 (3) 保育の展開と自己評価 	<ol style="list-style-type: none"> 6. 保育内容の課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 多様な保育ニーズへの対応と保育内容 (2) 幼稚園・小学校との連携 (3) 保育内容を学び・研究する保育者

【保育の内容・方法に関する科目】

<p><科目名> 保育内容総論 (演習・1単位) ※保育内容を分割</p>	
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所保育指針における「保育の目標」、「子どもの発達」、「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解するとともに、保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 2. 保育内容の歴史的変遷について学び、保育内容について理解する。 3. 子どもや子ども集団の発達の特性や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、保育内容と子ども理解とのかかわりについて学ぶ。 4. 子どもの生活全体を通して、養護(生命の保持、情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解する。 5. 保育の多様な展開について具体的に学ぶ。 	
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の基本と保育内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育所保育指針に基づく保育の基本及び保育内容の理解 (2) 保育の全体構造と保育内容 2. 保育内容の歴史的変遷 3. 保育内容と子ども理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの発達の特性と保育内容 (2) 個と集団の発達と保育内容 (3) 保育における観察 (4) 保育における記録 4. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 養護と教育が一体的に展開する保育 (2) 環境を通して行う保育 (3) 遊びによる総合的な保育 (4) 生活や発達の連続性に考慮した保育 (5) 家庭、地域、小学校との連携を踏まえた保育 5. 保育の多様な展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 乳児保育 (2) 長時間の保育 (3) 特別な支援を必要とする子どもの保育 (4) 多文化共生の保育 	

【保育の内容・方法に関する科目】

<科目名> 保育内容演習（演習・5単位）

<目標>

1. 養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。
2. 子どもの発達を「健康・人間関係・環境・言葉・表現」の5領域の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。

<内容>

以下の観点から、総合的に保育内容を理解する。

1. 子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助やかかわりである「養護」
 - ①子どもの生理的欲求を満たし、子どもが健康、安全、かつ快適に過ごすための生活援助
 - ②子どもを受容し、子どもが安心感と安定感をもって過ごすための援助やかかわり
2. 子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育（健康、人間関係、環境、言葉及び表現の5領域）」
 - ①健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う「健康」の領域。
 - ②他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う「人間関係」の領域。
 - ③周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う「環境」の領域。
 - ④経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う「言葉」の領域。
 - ⑤感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする「表現」の領域。

【保育の内容・方法に関する科目】

<p><科目名> 乳児保育 (演習・2単位)</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> わが国における乳児保育の変遷と保育所・乳児院・家庭の現状を確認しながら、保育所や乳児院の果たす役割、乳児保育を担当する保育者としての役割を自覚させる。 保育所や乳児院で乳児保育を担当する保育士として必要な乳児保育の理論や知識・技術の基本を具体的な事例を通して理解させる。 広く乳児期(3歳未満児)の発達と保育について学びながら、そこにおける大人の役割について、事例をもとに具体的に理解させる。 乳児を集団で保育することについて、保育現場での具体的な課題を、討議しながら考え問題解決の方法を理解させる。
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 乳児保育の意義 <ol style="list-style-type: none"> 乳児・乳児保育の概念 保育ニーズと乳児保育の考え方の基本 乳児保育の発展の経緯と現状 <ol style="list-style-type: none"> 乳児に対する保育観の変遷 乳児保育の一般化への過程 保育所・乳児院の役割と乳児保育の位置づけ 乳児の発達と保育 <ol style="list-style-type: none"> 0歳児の発達と保育(新生児期、0歳児前期、0歳児後期) 1歳児の発達と保育 2歳児の発達と保育 乳児の発達と保育(援助の基本的視点の獲得) 乳児の発達と保育 <ol style="list-style-type: none"> 乳児保育の計画(保育課程、指導計画) 保育形態と保育の環境構成 職員の協力体制 家庭・他機関・家庭的保育・地域との連携 保育の計画と記録・自己評価 <ol style="list-style-type: none"> 記録・自己評価 保育士の専門性 今後の課題

【保育の内容・方法に関する科目】

<p><科目名> 乳児保育 (演習・2単位)</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 乳児保育の理念と歴史の変遷及び役割等について学ぶ。 保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。 3歳未満児の発育・発達について学び、健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びについて理解する。 乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶ。 乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 乳児保育の理念と役割 <ol style="list-style-type: none"> 乳児保育の理念と歴史の変遷 乳児保育の役割と機能 乳児保育の現状と課題 <ol style="list-style-type: none"> 保育所における乳児保育 乳児院における乳児保育 家庭的保育等における乳児保育 乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 3歳未満児の発達と保育内容 <ol style="list-style-type: none"> 乳児保育における基本的な知識・技術に基づくかわりと援助 6か月未満児の発達と保育内容 6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容 1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容 2歳児の発達と保育内容 乳児保育の実際 <ol style="list-style-type: none"> 保育課程に基づく指導計画の作成と観察・記録及び自己評価 個々の発達を促す生活と遊びの環境 職員間の協働 乳児保育における連携 <ol style="list-style-type: none"> 保護者とのパートナーシップ 保健・医療機関、家庭的保育、地域子育て支援等との連携

【保育の内容・方法の理解に関する科目】

<科目名> 障害児保育 (演習・1単位)

<目標>

1. 一般の保育と障害児保育との連続性に気づかせ、一人ひとりの発達上の課題に対しての特別な保育ニーズと支援を明らかにする観点からの障害理解を促す。
2. 障害児保育を支える理念に関して理解を深め、併せて、保育所、障害乳幼児通園施設等での保育の変遷と現状、及び今後の課題を理解させる。
3. 様々な障害についての理解を促し、個別的な保育上の留意点について学習させる。
4. 障害児保育場面における、日常生活動作、食事動作、排泄動作、更衣動作など具体的な保育方法について理解させる。
5. 相談機関などの種類と内容を理解すると共に、障害児への個別的援助の概略と保護者を中心とした支援の内容に関して理解を深めさせる。

<内容>

1. 障害児保育を支える理念
インテグレーション、メインストリーミング、ノーマライゼーション、インクルージョン
2. 障害児を取り巻く保育の現状
 - (1) 保育の現状と課題
 - (2) 専門機関とのよりよい連携
3. 様々な障害の理解と個別配慮
 - (1) 障害の種類とその特徴
 - (2) 保育現場での留意事項
4. 個に応じた保育支援
遊びや対人関係の援助、食事動作、排泄動作、更衣動作などの生活動作に関する具体的な保育技術
5. 家庭に対する支援
家庭との連携と協力

【保育の内容・方法に関する科目】

<科目名> 障がい児保育 (演習・2単位) ※科目名要検討

<目標>

1. 障がい児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障がい児及びその保育について理解する。
2. 様々な障がいについて理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。
3. 障がいのある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。
4. 障がいのある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。
5. 障がいのある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。

<内容>

1. 障がい児保育を支える理念
 - (1) 「障がい」の概念と障がい児保育の歴史の変遷
 - (2) 障がい児保育の基本
2. 障がいの理解と保育における発達の援助
 - (1) 肢体不自由児、視覚・聴覚障がい児等の理解と援助
 - (2) 知的障がい児の理解と援助
 - (3) 発達障がい児の理解と援助① (ADHD—注意欠陥多動性障害、LD—学習障害等)
 - (4) 発達障がい児の理解と援助② (PDD—広汎性発達障害等)
3. 障がい児保育の実際
 - (1) 保育課程に基づく指導計画の作成と記録及び評価
 - (2) 個々の発達を促す生活や遊びの環境
 - (3) 子ども同士のかかわりと育ち合い
 - (4) 職員間の協働
4. 家庭及び関係機関との連携
 - (1) 保護者や家族に対する理解と支援
 - (2) 地域の専門機関等との連携及び個別の支援計画の作成
 - (3) 小学校等との連携
5. 障がいのある子どもの保育にかかわる現状と課題
 - (1) 保健・医療における現状と課題
 - (2) 福祉・教育における現状と課題
 - (3) 支援の場の広がりとながり

【保育の内容・方法の理解に関する科目】

<p><科目名> 養護内容 (演習・1単位)</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 模擬的に居住型の児童福祉施設などを利用している児童の立場になったり生活プログラムを作成するなどの演習をとおして、日常的に展開されている具体的な児童の生活や援助者の援助を理解させる。 2. 児童の心身の成長や発達を保障し援助するために必要な知識や技能を習得させる。 3. 児童観や施設養護観を養う。
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設利用者 <ol style="list-style-type: none"> (1) 家庭環境により家庭で生活することができない子どもたち (2) 心身に障害があるために専門的なケアを必要とする子どもたち 2. 援助(養護)の内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本的な日常生活の援助 (2) 心の傷を癒したり、心を育むための援助 (3) 親子関係を調整するための援助 (4) 学校や地域などとの関係を調整するための援助 (5) 自己実現・自立への援助 3. 援助(養護)の理念 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの最善の利益 (2) 生存と発達の保障 (3) 権利擁護 4. 児童福祉施設援助者 <ol style="list-style-type: none"> (1) 児童福祉施設の援助者としての資質、倫理 (2) 個別援助技術や集団援助技術などの専門援助技術 6. 今後の課題

【保育の内容・方法に関する科目】

<p><科目名> 社会的養護内容 (演習・1単位)</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ。 2. 施設養護及び他の社会的養護の実際について学ぶ。 3. 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ。 4. 社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について理解する。 5. 社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める。
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童の権利擁護と保育士等の倫理及び責務 <ol style="list-style-type: none"> (1) 児童の権利擁護 (2) 保育士等の倫理及び責務 2. 社会的養護の実施体系 <ol style="list-style-type: none"> (1) 施設養護の特性及び実際 (2) 里親制度の特性及び実際 3. 支援の計画と内容及び事例分析 <ol style="list-style-type: none"> (1) 個別支援計画の作成 (2) 日常生活支援に関する事例分析 (3) 治療的支援に関する事例分析 (4) 自立支援に関する事例分析 (5) 記録及び自己評価 4. 社会的養護にかかわる専門的技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の専門性にかかわる知識・技術とその応用 (2) ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 5. 今後の課題と展望 <ol style="list-style-type: none"> (1) 施設の小規模化と地域とのかかわり (2) 社会的養護の課題と展望

【保育の内容・方法に関する科目】

<科目名> 保育相談支援(演習・1単位) ※科目名変更、系列変更

<目標>

1. 保育相談支援の意義と原則について理解する。
2. 保護者支援の基本を理解する。
3. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。
4. 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。

<内容>

1. 保育相談支援の意義
 - (1) 保護者に対する保育相談支援の意義
 - (2) 保育の特性と保育士の専門性を生かした支援
2. 保育相談支援の基本
 - (1) 子どもの最善の利益と福祉の重視
 - (2) 子どもの成長の喜びの共有
 - (3) 保護者の養育力の向上に資する支援
 - (4) 信頼関係を基本とした受容的かわり、自己決定、秘密保持の尊重
 - (5) 地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力
3. 保育相談支援の実際
 - (1) 保育に関する保護者に対する指導
 - (2) 保護者支援の内容
 - (3) 保護者支援の方法と技術
 - (4) 保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス
4. 児童福祉施設における保育相談支援
 - (1) 保育所における保育相談支援の実際
 - (2) 保育所における特別な対応を要する家庭への支援
 - (3) 児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援
 - (4) 障がい児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援

【基礎技能】

<p><科目名> 基礎技能 (演習・4単位)</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の内容を理解し展開するために必要な知識や技能を習得させる。 2. 音楽及び造形に関する基本的な知識や技能を身につけ、それらに関する様々な活動を通して楽しさや喜びを体験し、保育の中で取り扱う教材やそれらを展開するために必要な知識や技能を習得させる。 3. 身体運動に関する基本的な知識を理解するとともに、身体能力や運動技能を高める。また、保育の中で取り上げる運動遊びに関する教材を作成したり、それらに必要な知識や技能を習得させる。
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽に関する基本的な知識や技能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 楽譜を読むために必要な基本的な知識 (2) 歌い、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識や技能 (3) 様々な音楽活動を通しての楽しさや喜びの経験 (4) 子どもの歌、簡易楽器、ピアノなど器楽による伴奏法など保育実践において必要な知識や技能 2. 造形に関する基本的な知識や技能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 造形活動を行う上で必要な材料や道具などに関する基本的な知識 (2) 描き造るために必要な絵画や工作、彫塑などに関する知識や技能 (3) 様々な造形活動を通しての楽しさや喜びの経験 (4) 造形玩具、遊具、ペーパーサート、影絵など保育実践において必要な知識や技能 3. 体育に関する基本的な知識や技能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 身体運動に関する基本的な知識と技能 (2) 保育実践において必要な知識や技能 (3) 運動遊びにおける安全管理

【保育表現技術】

<p><科目名> 保育表現技術 (演習・4単位) ※科目名変更、系列名変更</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。 2. 身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する。 3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体表現に関する知識や技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの発達と運動機能や身体表現に関する知識と技術 (2) 見立てやごっこ遊び、劇遊び、運動遊び等に見る子どもの経験と保育の環境 (3) 子どもの経験や様々な表現活動と身体表現とを結びつける遊びの展開 2. 音楽表現に関する知識や技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの発達と音楽表現に関する知識と技術 (2) 身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむ経験と保育の環境 (3) 子どもの経験や様々な表現活動と音楽表現とを結びつける遊びの展開 3. 造形表現に関する知識や技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの発達と造形表現に関する知識と技術 (2) 身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験と保育の環境 (3) 子どもの経験や様々な表現活動と造形表現とを結びつける遊びの展開 4. 言語表現等に関する知識や技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等に関する知識と技術 (2) 子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境 (3) 子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開 5. 教材等の活用及び作成と保育の展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 様々な遊具や用具、素材や教材等の特性の理解と活用及び作成 (2) 子どもの遊びやイメージを豊かにし、感性を養うための環境構成と保育の展開

【保育実習】

<p><科目名> 保育実習 (実習・5単位)</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解させる。 2. 既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。 3. 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ばせる。
<p><内容></p> <p>【保育実習指導(1単位)】 (ねらい) 保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。</p> <p>(内容)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前指導として学内において講義や視聴覚学習等を用いた演習を行い、また実習施設において見学・オリエンテーション等を行う。とりあげる内容は次の通りである。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育実習の意義・目的・内容の理解 (2) 保育実習の方法の理解 (3) 実習の心構えの理解。特に個人のプライバシーの保護と守秘義務、子どもの人権尊重についての理解。 (4) 実習課題の明確化 (5) 実習記録の意義・方法の理解 (6) 実習施設の理解 2. 実習中に巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもとに、実習生へのスーパービジョンを行う。 3. 実習終了後に、事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化させる。 <p>【保育所における実習(2単位)】 (ねらい) 保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学ばせる。</p> <p>(内容)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設について理解させる 2. 保育の一日の流れを理解し、参加させる 3. 子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解させる

【保育実習】

<p><科目名> 保育実習Ⅰ (実習・4単位:保育所実習2単位・施設実習2単位)</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。
<p><保育所実習の内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育所の生活と一日の流れ (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開 2. 子ども理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへのかかわりと援助 3. 保育内容・保育環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 4. 保育の計画、観察、記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育課程と指導計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理 <p><居住型児童福祉施設等及び障がい児通所施設等における実習の内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 施設の生活と一日の流れ (2) 施設の役割と機能 2. 子ども理解

4. 保育課程・指導計画を理解させる
5. 生活や遊びなどの一部分を担当し、保育技術を習得させる
6. 職員間の役割分担とチームワークについて理解させる
7. 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解させる
8. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ばせる
9. 保育士としての倫理を具体的に学ばせる
10. 安全及び疾病予防への配慮について理解させる

【居住型児童福祉施設等における実習(2単位)】

(ねらい)

居住型児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、居住型児童福祉施設等の機能とそこでの保育士の職務について学ばせる。

(内 容)

1. 実習施設について理解させる
2. 養護の一日の流れを理解し、参加させる
3. 子どもの観察や関わりを通して、子どものニーズを理解させる
4. 援助計画を理解させる
5. 生活や援助などの一部分を担当し、養護技術を習得させる
6. 職員間の役割分担とチームワークについて理解させる
7. 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解させる
8. 子どもの最善の利益についての配慮を学ばせる
9. 保育士としての職業倫理を理解させる
10. 安全及び疾病予防への配慮について理解させる

- (1) 子どもの観察とその記録
- (2) 個々の状態に応じたかかわりと援助
3. 養護内容・生活環境
 - (1) 計画に基づく活動や援助
 - (2) 子どもの心身の状態に応じた対応
 - (3) 子どもの活動と生活の環境
 - (4) 健康管理、安全対策の理解
4. 計画と記録
 - (1) 支援計画の理解と活用
 - (2) 記録に基づく省察・自己評価
5. 専門職としての保育士の役割と倫理
 - (1) 保育士の業務内容
 - (2) 職員間の役割分担や連携
 - (3) 保育士の役割と職業倫理

【保育実習】

<科目名> 保育実習指導 I (演習・2単位) ※保育実習より分化

<目標>

1. 保育実習の意義・目的を理解する。
2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。
3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

<内容>

1. 保育実習の意義
 - (1) 実習の目的
 - (2) 実習の概要
2. 実習の内容と課題の明確化
 - (1) 実習の内容
 - (2) 実習の課題
3. 実習に際しての留意事項
 - (1) 子どもの人権と最善の利益の考慮
 - (2) プライバシーの保護と守秘義務
 - (3) 実習生としての心構え
4. 実習の計画と記録
 - (1) 実習における計画と実践
 - (2) 実習における観察、記録及び評価
5. 事後指導における実習の総括と課題の明確化
 - (1) 実習の総括と自己評価
 - (2) 課題の明確化

【総合演習】

<科目名> 総合演習 (演習・2単位)

<目標>

1. 保育に関する自発的、科目横断的な学習能力を習得させる。
2. 保育に関する現代的課題について、問題等の現状分析・検討を行わせる。
3. 問題解決のための対応、判断方法等について検討させる。
4. 必修科目(総合演習を除く。以下同じ。)及び選択必修科目の履修状況を踏まえ、保育士として必要な知識技能を修得したことを確認させる。

<内容>

「総合演習」は、次の①又は②のいずれかを実施するものとする。

- ① 保育にかかわる課題の中から一以上のものに関する分析、検討を行うと共に、その課題について、児童や保護者を援助するための技術、方法について学修させるものとする。さらに、問題を発見し、その問題を解決する過程を理解し、解決内容について再検討する手法を取得させることをも目的とする。
- ② 総合演習を履修する者の必修科目及び選択必修科目の履修状況を踏まえ、保育士として必要な知識技能を修得したことを確認するものとする。

【参考例】

①について

(課題)

1. 少子化への対応
2. 虐待及びそれに伴う世代間連鎖について
3. 長時間保育と子どもの発達について
4. 少子高齢化と世代間交流

(教授方法)

1. テーマごとのディスカッション
2. 研究発表
3. 研究発表

②について

(必要な知識技能を修得したことを確認するための授業内容・方法)

1. イントロダクション・これまでの学修の振り返りについての講義・グループ討論
2. 保育士の意義や役割、職務内容、児童に対する責任等についてのグループ討論。ロールプレイング
3. 社会性、対人関係能力、児童理解等についてのグループ討論
4. 保育内容等の指導力についての講義・グループ討論
5. 資質能力の確認、まとめ

【保育実践演習】

<科目名> 保育実践演習 (演習・2単位)

<目標>

1. 保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。
2. 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。
3. 問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。
4. 必修科目(保育実践演習を除く。以下同じ。)及び選択必修科目の履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育士として必要な知識・技能を修得したことを確認する。

<内容>

「保育実践演習」は、次の①又は②のいずれかを行うものとする。

- ① 保育にかかわる課題の中から一以上のものに関する分析、考察、検討を行うとともに、その課題について、児童や保護者を援助するための技術、方法等について学修する。さらに、問題を発見し、その問題を解決する過程や解決内容について再検討する手法を取得する。
- ② 必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育実習を通しての学び等を踏まえ、保育士として必要な知識技能を修得したことを確認する。

【参考例】

①について

(課題)

1. 少子化への対応
2. 虐待及びそれに伴う世代間連鎖について
3. 長時間保育と子どもの発達について
4. 幼稚園・認定こども園・小学校との連携について

(方法)

1. テーマごとのディスカッション
2. 研究発表
3. 研究発表

②について

(必要な知識技能を修得したことを確認するための方法・内容)

1. イントロダクション・これまでの学修の振り返りについての講義・グループ討論
2. 保育士の意義や役割、職務内容、児童に対する責任等についてのグループ討論。ロールプレイング
3. 社会性、対人関係能力、児童理解等についてのグループ討論
4. 保育内容等の指導力についての講義・グループ討論
5. 資質能力の確認、まとめ

選択必修
【保育実習】

<p><科目名> 保育実習Ⅱ (実習・2単位)</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の保育を実際に行い、保育士として必要な資質・能力・技術を習得させる。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育全般に参加し、保育技術を習得させる。 2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得させる。特に発達遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ばせる。 3. 指導計画を立案し、実際に実践させる。 4. 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を、具体的に習得させる。 5. 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ばせる。 6. 子どもの最善の利益への配慮を学ばせる。 7. 保育士としての職業倫理を理解させる 8. 保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化させる。

選択必修
【保育実習】

<p><科目名> 保育実習Ⅱ (実習・2単位:保育所実習)</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わり方の視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士としての自己の課題を明確化する。
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 養護と教育が一体となって行われる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育士等の動きや実践の観察 (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 <ol style="list-style-type: none"> (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 (3) 地域社会との連携 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己の課題の明確化

選択必修

【保育実習】

<科目名> 保育実習Ⅲ (実習・2単位)
<目標> 1. 児童福祉施設(保育所以外)、その他社会福祉施設の養護を実践に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得させる。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。
<内容> 1. 養護全般に参加し、養護技術を習得させる。 2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得させる。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ばせる。 3. 援助計画を立案し、実際に実践させる。 4. 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を、具体的に習得させる。 5. 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について学ばせる。 6. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ばせる。 7. 保育士としての倫理を具体的に学ばせる。 8. 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化させる。

【保育実習】

<科目名> 保育実習Ⅲ (実習・2単位:保育所以外の施設実習)
<目標> 1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4. 保育士としての自己の課題を明確化する。
<内容> 1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能 2. 施設における支援の実際 (1) 受容し、共感する態度 (2) 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 (3) 個別支援計画の作成と実践 (4) 子どもの家族への支援と対応 (5) 多様な専門職との連携 (6) 地域社会との連携 3. 保育士の多様な業務と職業倫理 4. 保育士としての自己課題の明確化

【保育実習】

<科目名> 保育実習指導Ⅱ又はⅢ（演習・1単位）※新設

<目標>

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

<内容>

1. 保育実習による総合的な学び
 - (1) 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
 - (2) 子どもの保育と保護者支援
2. 保育実践力の育成
 - (1) 子どもの状態に応じた適切なかわり
 - (2) 保育の表現技術を生かした保育実践
3. 計画と観察、記録、自己評価
 - (1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践
 - (2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
4. 保育士の専門性と職業倫理
5. 事後指導における実習の総括と評価
 - (1) 実習の総括と自己評価
 - (2) 課題の明確化

<科目名> 選択必修 (8単位)

<科目名> 選択必修 (6単位) ※単位数減少